

令和4年度政策チェックアップ評価結果概要

別紙

【政策チェックアップの概要】（国土交通省の基本的な評価方式の一つ（政策評価法に基づく事後評価））

- ・ 国土交通省の主要な行政目的に係る政策に関して横断的・体系的に整理した13の政策目標を設定
- ・ 政策を実現するための具体的な44の施策目標を設定し、施策目標の達成度を適切に表す指標として115の業績指標（細分類ベースでは188の指標）を設定
- ・ 国土交通省の施策目標及び業績指標について、前年度（令和4年度）の実績値等により評価を行い、評価結果を踏まえて、課題の特定と今後の取組の方向性を整理

1. 業績指標

施策目標の達成度合いを表す指標
具体的な数値で設定

	R4年度	R2年度	H30年度
A評価	105件 (55.9%)	112件 (57.1%)	119件 (60.4%)
B評価	73件 (38.8%)	84件 (42.9%)	67件 (34.0%)
N評価	10件 (5.3%)	0件 (0%)	11件 (5.6%)

A評価（実績値が目標達成に向けた成果を示す）
B評価（実績値が目標達成に向けた成果を示さず）
N評価（実績値が得られず判断できない）

2. 施策目標

政策を実現するための具体的な施策に関する目標

※【】内は、上段の件数のうち、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、かつ令和2年度よりも評価が下がった施策目標の件数。

評価区分	R4年度	R2年度	H30年度
①目標超過達成	1件(2.3%)	0件 (0%)	0件 (0%)
②目標達成	9件(20.5%)	14件 (31.8%)	16件 (36.4%)
③相当程度進展あり	15件(34.1%) 【1件】	21件 (47.7%)	15件 (34.1%)
④進展が大きくない	18件(40.9%) 【6件】	9件 (20.5%)	13件 (29.5%)
⑤目標に向かっていない	1件(2.3%) 【1件】	0件 (0%)	0件 (0%)

評価結果について

- 令和4年度の評価結果の動向としては、今回新たに設定したDX(デジタルトランスフォーメーション)、CN(カーボンニュートラル)関係の業績指標はA評価となったほか、施策目標について「①目標超過達成」の事例も出ているなど、様々な施策の進展が見られた。一方、令和4年度より業績指標の見直しを行っているため令和2年度評価時との単純な比較は困難であるが、全体として評価が下振れした。

- 下振れの要因は各業績指標・施策目標ごとに様々であるが、指標の性質上、世界の社会経済情勢、日本全体の人口動態の変化等の影響を受けているものも多いところ、特に今回の評価にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた業績指標・施策目標が見られた。(感染症の影響を受けた業績指標・施策目標についても、定量的な根拠に基づき評価を実施。)

- 国土交通関連分野においては、主に以下のような事象が関連指標の動向に影響を与えていると考えられる。
 - ・訪日外国人旅行者、公共交通機関の利用者等の減少や、それに伴う国際・国内交通ネットワークの縮小
 - ・国際・国内貨物輸送需要の低迷、その後の需要回復期における国際海上物流の混乱
 - ・旅客・貨物輸送事業者の経営状況の悪化による各種投資控え(バリアフリー化、省エネルギー対策)
 - ・都市部の商業地等における地価下落